

「今月の1枚」



イヌツゲ枝枯病（新病害） 病原菌ディアトリペの一種 *Diatrype* sp.

イヌツゲ (*Ilex crenata* Thunb.) は屋敷周りの生け垣や庭木に多用される樹種ですが、最近まであまり激しい病気は発生しない樹木、と考えられていました。ところが4, 5年前に依頼された病害鑑定を機に調べたところ、今まで記録の無いイヌツゲ枝枯病が日本各地に発生して枝枯など激しい衰退を起こしていることが分かりました。病原菌はカビ（糸状菌）の1種 *Diatrype* sp. です。胞子の伝染時期など詳しい生態は分かっていませんが、枝枯は春に気温が上がり始める頃の発生が多いようです。枯れ葉の付いている枝を元の方にたどると、枝の表面が黒色の菌体で被われているのが分かります。剪定鋏等で伝染するよう見受けられるので、病樹の剪定を行なった後は、道具などを良く洗って消毒用エタノールなどで消毒することが重要です。詳しくは升屋ら（2008年3月発行の森林防疫57号）をご覧ください。

（写真：溝渕照江・文：楠木 学 2008. 4. 21 高知市 森林総合研究所四国支所構内で撮影）

（No. 169 2008. 4. 21 掲載）